



災害対応力の強化

「令和2年7月豪雨」は福岡県、熊本県、鹿児島県、長崎県、佐賀県の5県で「大雨特別警報」が発令されるなど、広い範囲での記録的な大雨により、当社管内53ヵ所で災害が発生しましたが、24時間体制による応急復旧工事により、早期に交通機能を確保しました。



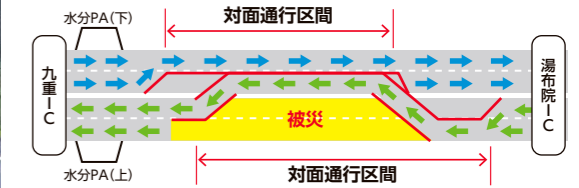
1 4車線区間での上下線2車線運用による早期交通機能の確保

2020年7月3日から10日にかけて大分自動車道 九重IC付近では総雨量767.5mmが観測され、この大雨により大分自動車道 九重IC～湯布院ICの間の上り線で土砂流出が発生し通行止めとなりました。

復旧に相当な時間を要するため、被害のなかった下り線を活用した対面通行により、発災後約72時間で通行止めを解除しました。



中央分離帯撤去の様子 レーンマーク施工の様子 対面通行規制の完成



2 河川氾濫等により地域の道路が寸断、“高速道路を最大限に生かす”取り組み

Ⅰ 緊急開口部の活用により臨時出入口を設置

一般道の被災により、八代市坂本町では被災地域へのアクセスが寸断されたため、被災地域への代替路として九州自動車道 坂本PAの緊急開口部を地域の方々にご利用いただきました。

【町民及び関係者へ2,200件の利用許可書を発行、約12万台が利用】
(2021.3.31時点)

また、臨時出入口は、坂本PAのほかに鮎尾BS(バス停)・山江SAに設置し、緊急車両や災害従事車両の出入口として代替路を確保しました。



坂本PA下りの緊急開口部で利用許可書を確認

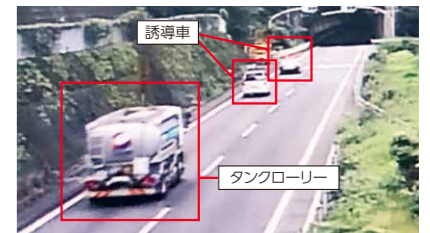


鮎尾BS上りの緊急開口部を利用する緊急車両

Ⅱ エスコート通行方式で燃料輸送

危険物積載車両の通行が禁止されている九州自動車道 肥後トンネルにおいて、全国の高速道路で初めて、エスコート通行方式によるタンクローリーの通行を実施し、被災地への輸送を確保しました。

※ 2016年8月に長大トンネル等における災害時の通行規制が緩和されました。



Ⅲ 一般道の代替として高速道路の無料措置

自治体の要請を受け、九州自動車道 八代IC～人吉IC、大分自動車道 杷木IC～湯布院ICの区間で被災した一般道の代替路(無料)措置を実施しました。

Voice 柔軟な対応で、被災地の復旧・復興を力強く支援

令和2年7月豪雨により、熊本県の広い範囲で浸水被害や土砂災害が発生しました。特に県南の球磨川では、八代市から人吉市にかけて大氾濫に襲われ、球磨川沿いを走る国道219号はいたる所で寸断され、10本の橋が流失しました。

このような状況の中、並行する九州縦貫自動車道の存在は大変心強いものでした。NEXCO西日本様のご支援により、八代IC～人吉IC間の代替路措置を実施していただき、災害救助やボランティア活動が円滑に進みました。さらに、坂本PAのゲート開放のおかげで孤立状態となっていた集落への乗り入れや道路等の応急復旧が可能となり、地域住民の生活を守ることが出来ました。今回の災害により、道路の「多重性」と「強靱化」の重要性を再認識したところです。今後とも道路網の緊密な連携を行い、災害からの早期の復旧・復興を図ってまいります。



熊本県土木部長 村上 義幸 様